

# 宗教哲学会 第18回学術大会

2026年3月21日(土)  
京都大学 文学部校舎

## 研究発表

第1部会(第4講義室) 9時40分～12時5分

1. ハンナ・アーレントにおける「出生性」について  
伊藤孟(京都大学)
2. 歴史の限界と有限性  
—ハイデガー・ゴットル・三木清  
若見理江(就実大学)
3. カントにおける美と道德宗教の架橋可能性  
—教会儀礼論にみられる崇高性の観点から  
森良太(上智大学)

第2部会(第5講義室) 9時40分～12時5分

1. イエス・キリストの位相と神学・政治的変容  
—ピエール・ジゼルの視点から  
韓亨模(日本キリスト教団牧師)
2. デリダにおける肯定の思想と神秘主義  
—「多くのウィ」を手がかりに  
嶺村 慧(明治学院大学)
3. ミシェル・ド・セルトーの「信」論をめぐって  
渡辺 優(東京大学)

第3部会(第6講義室) 10時30分～12時5分

1. 西谷啓治『宗教とは何か』における image の問題  
—面、仮、幻  
中川竣貴(京都大学)
2. ウィリアム・ジェイムズにおける「多神教」の概念  
山根秀介(横浜国立大学)

シンポジウム(第7講義室) 13時45分～17時15分

## 「現代日本における「生の基盤」を求めて」

1. 霊性的自覚と生の基盤  
—鈴木大拙「大地」の思想から  
水野友晴(関西大学)
2. よき生を支える悪い物語という問題  
—宗教哲学と死生学・医療人類学の接点から  
佐藤啓介(上智大学)
3. 死者の力と宗教の物語  
—グリーンワークの観点から  
高橋 原(東北大学)

司会・趣旨説明：水野友晴(関西大学)

コメンテーター：鈴木岩弓(東北大学)

会員以外の方も参加料500円でご参加いただけます。